

地域ワイド

でんき宇奈月
プロジェクト

小水力発電システム

土砂崩れの危険感知へ



黒部市宇奈月温泉で小水力発電などを通じて地域活性化を目指す「でんき宇奈月プロジェクト」実行委員会（大橋聡司委員長）は14日、土砂崩れなどの発生を素早く感知する、小水力発電を活用したシステムの実証実験を同市の宇奈月神社で行い、関係者約20人が精度を確認した。

【webunに写真3枚】

初の実証実験 精度を確認

委員会が開発を進めているのは「超節水センサー発電対応斜面崩壊監視システム」。山間部は安定した電力供給が見込めないため、用水や湧き水でぜん状の水車を回して発電する。ぜんまいにエネルギーをため込むことで、安定的な発電ができる。斜面に設置したセンサーが傾斜や気候の変化を読み取り、サーバーにデータを送信する。

実証実験は今回が初めて。神社敷地内の斜面にセンサーを設置し、周囲の地盤を緩くして土砂崩れを再現。すぐにサーバーにデータが蓄積されアラーム音が鳴り響いた。発電部分を担当する東洋センマイ（黒部市）と、システム系を担う検査業務のアイベック（富山市）の社員らも実験の様子を見守った。大橋委員長は「1年後の実用化を目指して研究を重ねたい」と意気込んでいる。

土砂崩れを再現し監視システムの精度を確かめた実験。右下が小水力発電装置